

## ◆ 平成30年度 鳴門市 各部長実行宣言（年度末報告） ◆

（ 市民環境部 ）

部長名

廣瀬 高

達成度区分

◎：達成(100%以上) ○：ほぼ達成(80%以上 100%未満) △：未達成 ×：未着手

No	重点項目	目標(何を、どうする)	各取組の達成度	達成状況等
1	市民との協働によるまちづくりの推進	① 地域課題解決のため協働事業を充実します。	◎	「WeLoveなるとまちづくり活動応援補助金」制度を継続し、行政提案型の「魅力ある『なると第九』の情報発信」をはじめ採択を受けた10団体が実施する地域課題解決のための活動を支援しました。 地域のコミュニティ活動を活性化し、地域によるまちづくりを推進するため市内全14地区自治振興会に「地域づくり活性化補助金」を交付し、地域の実情に沿った特色ある活動を支援しました。 また、市内の団体が自主的に行う公益的活動を支援するため、軽トラックと音響器具、かんたんテントの無償貸し出しを行いました。
		② 地域活動を担う人材を発掘・育成します。	○	「地域デビュー手引書」を市民協働推進課窓口や各地区自治振興会の活動拠点等に配置し、地域コミュニティ活動やボランティア活動を支える人材の発掘に取り組みました。 「自治会加入促進パンフレット」を市民課窓口及び宅地宅建取引業協力店舗で配布し、自治会加入希望者の取次ぎを行いました。
		③ 自治基本条例の理念の浸透や協働事業についての周知・啓発を図ります。	◎	市公式ウェブサイトの新着情報や「市民協働のまちづくり」コーナーでは、市や市民団体が実施するまちづくり活動等の情報発信を行いました。(平成30年4月1日から31年2月末現在での更新回数は146回) 平成30年1月に開始した、「WeLoveなると市民協働のまちづくりFacebook」でも、積極的にタイムリーな情報発信を開始しました。(2月末現在での更新回数は160回) 未来を担う子どもたちに「鳴門市自治基本条例」の理念を知ってもらいまちづくり活動への参加につなげてもらうため、「子ども版自治基本条例パンフレット」を小学6年生の社会科等の授業に活用しました。
	【総括達成度】	◎	◎	市民協働推進本部会議及びワーキンググループを開催し、平成29年度の協働の取組状況及び職場内研修の結果について報告を行い、全庁的な情報共有を図りました。(29年度の協働事業数は162事業で、前年度比3事業増。) 平成30年度は、「魅力あるまちづくりを目指して～一人ひとりがなるためのために～」をテーマに、平成31年1月9日から2月15日まで、全職員を対象に職場内研修を実施しました。

◆ 平成30年度 鳴門市 各部長実行宣言（年度末報告） ◆

（ 市民環境部 ）

部長名

廣瀬 高

達成度区分

◎：達成(100%以上) ○：ほぼ達成(80%以上 100%未満) △：未達成 ×：未着手

No	重点項目	目標(何を、どうする)	各取組の達成度	達成状況等
2	コンビニ証明書交付サービス事業	① 今年度中に「コンビニ証明書交付サービス」を開始するために、地方公共団体情報システム機構への申請手続きや、システム改修などのスケジュール管理をしながら、マイナンバーカード制度の効果的な広報に取り組み、マイナンバーカードの交付者数を増やします。	◎	マイナンバーカードを利用して全国のコンビニエンスストアのマルチコピー機を自ら操作をして住民票の写し、戸籍謄本等を取得できる「証明書コンビニ交付サービス」を平成31年2月1日から開始しました。また、同サービスの利用促進とマイナンバーカードの更なる普及を図ることを目的にコンビニに設置しているマルチコピーと同モデルを市民課内に設置しました。同サービスを利用するためには、マイナンバーカードが必要であることから、マイナンバーカードの交付率を増やすためタブレット端末を使ったオンライン申請の特設会場を設けたり、取得方法を従来の交付時来庁方式にくわえ、申請時来庁方式も導入し、マイナンバーカード交付率アップに努めました。 31.1月末時点マイナンバーカード交付数 6,835人 人口 57,701人 交付率 11.8%
	【総括達成度】			
3	スポーツを通じた地域活性化とにぎわいづくりの創出	① 本市が誇る「観光」「文化」「食」などの地域資源とスポーツを組み合わせ、戦略的に活用することにより、スポーツによる地域経済の活性化とにぎわい創出を図ります。	○	7月より観光施設等で特典が受けられる「NARUTOスポーツパス」を各種スポーツ大会参加者に配布することにより、スポーツを通じた地域活性化を図った。 なると島田島ハーフマラソンを昨年に引き続き開催し、関西圏でのPRを強化することにより、県外参加率は15.3%から33.2%へと倍増した。 徳島ヴォルティスと連携し、転入者招待企画を開始するとともに、足湯の装飾・PRなどJR鳴門駅周辺を活用し、応援機運の醸成に取り組んだ。
	【総括達成度】			
		② ポートレース鳴門・プレイパークをはじめ、本市にあるスポーツ施設を活用し、スポーツ大会・スポーツ合宿を誘致するなど、交流人口を増やします。	◎	スポーツ大会・合宿誘致に向けたパンフレットを作成し、旅行代理店や大学等を訪問するとともに、I-ANSや徳島インディゴソックスと連携し、インバウンド合宿誘致への取り組みをすすめた。 韓国のフィムン高校からのインバウンド野球合宿を実現し、35日間の合宿を官民一体となって受け入れた。経済効果は1千万円を超えるものと推測している。 10月に開幕したばかりの卓球・Tリーグの本市での開催に向けて、誘致活動を開始した。

◆ 平成30年度 鳴門市 各部長実行宣言（年度末報告） ◆

（市民環境部）

部長名

廣瀬 高

達成度区分

◎：達成(100%以上) ○：ほぼ達成(80%以上 100%未満) △：未達成 ×：未着手

No	重点項目	目標(何を、どうする)	各取組の達成度	達成状況等
4	「第九」アジア初演の地ブランド化プロジェクトの推進	①「第九」アジア初演記念事業におけるイベントにおいて、会場の収容を埋められるように集客を図るため、関係機関と連携を図りながら広報周知に努めます。	◎	「第九」初演の日である6月1日前後を中心に、年間を通じて「第九」アジア初演100周年記念事業を展開してきたが、メディア及びSNSを通じた周知や各種雑誌掲載などの広報戦略により、多くの集客を達成できた。また、国内外からドイツ関係者をはじめとする外国人の来場や事業参加につなげたほか、多数の報道機関を集めることができた。
		②国内・国外からの認知度向上及び誘致に繋げるため、実施した記念事業の成果や記録を活かしたPRを強化します。	○	「第九」アジア初演100周年記念事業の実施により、その記録などをもとにした特集などがメディアや雑誌により制作され、国内外で発信されるなど、認知度の向上が図られた。しかしながら、記録映像によるPR動画や記念誌などを活用した広報発信は、今後さらに推進を図る必要がある。
	【総括達成度】	◎	◎	市内小学生児童を対象とした、ドイツ館ほか「なると第九」関連施設及び史跡訪問の学習と連携し、「歓喜の歌」のドイツ語指導などを講師を派遣して実施した。また、その成果発表として、「第九」100周年開幕イベントにおいて、子どもと大人による「第九」交響曲第4楽章演奏会のほか、板東俘虜収容所の史実を基に描かれた絵本の朗読鑑賞などを実施し、理解を深めることができた。

## ◆ 平成30年度 鳴門市 各部長実行宣言（年度末報告） ◆

（ 市民環境部 ）

部長名

廣瀬 高

達成度区分

◎：達成(100%以上) ○：ほぼ達成(80%以上 100%未満) △：未達成 ×：未着手

No	重点項目	目標(何を、どうする)	各取組の達成度	達成状況等
5	「なると環境プラン推進計画2017」の推進	①「なると環境づくり推進市民会議」を開き、市民のニーズを把握するため、市民の意見を集約します。	◎	「なると環境プラン推進計画2017」を基に、関係課課長で構成する「庁内環境会議」において、各課の新規事業、事業実績、事業計画についてローリング方式により実施計画案を作成し、その後、市民でつくる「なると環境づくり推進市民会議」において協議していただき、市民のニーズを取り入れた「鳴門市環境基本計画実施計画」を策定し、この実施計画を公表するとともに推進しました。
	【総括達成度】	②第六次総合計画及び各関連計画等との整合性を図りつつ、計画を推進します。	◎	本市における望ましい環境像や環境づくりを提起した「なると環境プラン2004」における長期的な取り組みと、「第六次鳴門市総合計画」、「鳴門市都市計画マスタープラン」等との整合性を図りながら、社会状況や環境の変化に即応しながら5年間で取り組む「なると環境プラン推進計画2017」を推進しました。
6	ごみの減量化と資源化の推進について	①「鳴門市一般廃棄物処理基本計画」において、平成34年度を中間目標年としてごみ排出量削減の数値目標を設定したことから、各目標値の達成をめざしていくこととなりますが、今年度はその初年度として、各家庭から出る生ごみの水切りの徹底と雑がみのリサイクルについて重点的に取り組みます。	△	今年度の家庭系可燃ごみは啓発の効果もあり、平成30年度見込(平成31年2月末現在)9,329tであり、鳴門市一般廃棄物処理基本計画の平成30年度目標数値より6%減量できている。 今年度の全ごみ量は台風や豪雨の影響での災害ごみ増加や事業系のごみ搬入増加により平成30年度見込(平成31年2月末現在)19,602tであり、鳴門市一般廃棄物処理基本計画の平成30年度目標数値より1.3%多い。
	【総括達成度】	・家庭系可燃ごみ⇒9,920t/年(H34年度目標9,416t) ・全ごみ量⇒19,350t/年(H34年度目標18,647t)		